

地域リハビリテーション勉強会 in 壱岐

介護予防における集団特性の重要性

～鹿児島を取り組み報告～

更新日 令和元年 8月

令和元年8月2日(金)「介護予防における集団特性の重要性～鹿児島を取り組み報告～」と題し、壱岐地域リハビリテーション広域支援センター主催の勉強会を開催しましたのでその概要についてご報告いたします。

今回は講師の先生に、鹿児島大学医学部 保健学科理学療法学専攻 准教授 大渡昭彦先生をお招きしました。鹿児島市における地域介護予防についての取り組みを学ぶと共に、統計学的手法を用いて得られたデータの特徴や性質の読み取り、方針や課題解決の裏付けの仕方を学習することを目的として開催しました。

勉強会概要

【日時】

令和元年8月2日(金)
午後18時00分～午後20時00分まで

【場所】

壱岐の島ホール 2階 大会議室

【内容】

- ① 「行動経済学の理論」について
- ② 「高齢者の意思決定」について
- ③ 「なぜ統計学が必要なのか」について

【主催】 壱岐地域リハビリテーション広域支援センター

【参加者】 74名



【感想】

現在の介護予防事業は医療目線での取り組みが中心となっており、病気を持っていない健康な一般高齢者に対しての介護予防事業は受け入れられにくいのではないかとのお話に目からうろこであった。病気を観るのではなくその方を観ようとする視点が大切だと考えた。また、高齢者の意思決定は直感的に働く傾向があり、さらに、周りの身近な人の話に影響を受けやすいため、介護予防事業を行い、継続していくにあたって、その地域の特性を調べる必要があり、そこで統計学の知識が役立つことを学んだ。大渡先生のお話はとても丁寧で分かりやすくお声も素敵で聞きやすく、統計学についての恐怖心が和らいだ感じがしました。

